

各 位

浦安鐵鋼団地協同組合
景況実感調査委員会

浦安鐵鋼団地景況実感調査結果表
(2026年04月分)

ご協力ありがとうございました。2026年4月分の結果をお送りいたします。よろしくご査収ください。

調査対象 140 回答 133 回答率 95.0%

調査項目	前 年 同 月 比					計
	10%以上 増加・上昇・好況	やや 増加・上昇・好況	横這い・平常	やや 減少・下降・不況	10%以上 減少・下降・不況	
売上数量	21社	20社	51社	26社	15社	133社
	15.8%	15.0%	38.3%	19.5%	11.3%	
	(12.7)	(11.2)	(38.8)	(25.4)	(11.9)	
売上高	21社	22社	44社	31社	15社	133社
	15.8%	16.5%	33.1%	23.3%	11.3%	
	(11.2)	(14.9)	(32.8)	(23.9)	(17.2)	
在庫数量	10社	20社	66社	23社	9社	128社
	7.8%	15.6%	51.6%	18.0%	7.0%	
	(6.2)	(16.3)	(44.2)	(22.5)	(10.9)	
販売単価	5社	24社	71社	29社	3社	132社
	3.8%	18.2%	53.8%	22.0%	2.3%	
	(2.2)	(10.4)	(54.5)	(26.1)	(6.7)	
収益状況 (粗利)	22社	23社	49社	27社	11社	132社
	16.7%	17.4%	37.1%	20.5%	8.3%	
	(8.4)	(19.8)	(36.6)	(22.9)	(12.2)	
稼働率 (生産・加工設備)	8社	15社	59社	27社	9社	118社
	6.8%	12.7%	50.0%	22.9%	7.6%	
	(3.4)	(13.7)	(50.4)	(23.9)	(8.5)	
入出庫の トラック台数	8社	15社	68社	30社	7社	128社
	6.3%	11.7%	53.1%	23.4%	5.5%	
	(3.1)	(11.5)	(48.5)	(29.2)	(7.7)	
現在の 景況感	0社	8社	58社	41社	25社	132社
	0.0%	6.1%	43.9%	31.1%	18.9%	
	(0.0)	(1.5)	(36.9)	(40.0)	(21.5)	
3ヶ月後の 景況予測	1社	9社	78社	36社	8社	132社
	0.8%	6.8%	59.1%	27.3%	6.1%	
	(0.8)	(3.8)	(56.9)	(31.5)	(6.9)	
特記事項						

- 注 ①調査対象会社数は浦安に事業所の無い会社（不在地主など）は除外してあります
②()内の数字は前月のパーセントです
③結果表は全品種の動向として集計し、品種別の要因を取り上げる必要がある場合は
特記事項欄に別途記載いたします
④本調査の宛先等の変更は、浦安鐵鋼団地協同組合事務局までご連絡ください
事務局 TEL : 047-350-5311 FAX : 047-350-5316

景況実感調査(2026年4月)特記事項

毎月、景況実感調査にご協力頂きましてありがとうございます。集計結果は別紙にてお送りしましたが、今月もたくさんのコメントを頂きましたのでお送りします。ご査収下さい。

【お断り】寄せられたコメントは、各社担当者の現場の声です。個々の会社固有の状況にもとづくものも多々あります。業界全体及び浦安鉄鋼団地全体の見解とは必ずしも一致しませんので、お含み置き願います。また、不穏当な表現やわかりにくい表現については書き直しております。信用問題にかかわるものも原則として掲載しておりません。

薄板・表面処理鋼板

- ① 中東情勢の長期化に伴い、一部需要家では原材料調達や生産計画に影響が出始めており、トラック向け案件でも先月までの安定した受注にやや陰りが見られた。店売り分野についても、需要の回復が一段と鈍化し、全般的に動きの弱い月となった。外部環境の不透明感が一層強まる中、需要家側の慎重姿勢が広がっており、市況全体としても落込み傾向が否めない状況。当面は情勢の推移を注視しつつ、慎重な需給判断が続く見込み。
- ② 4月の販売量はほぼ前年並み(99.3%)。ただ、昨年4月も決して満足いく販売量ではなかったため、状況としては停滞が続いている。今後は中東情勢も影響し、建築資材不足による遅れや施工取り止め等がさらに発生する可能性あり。

中板

- ① 中板は4月に入っても需要に大きな変化はなく、引き合いは低調。店売りも在庫補充の域を出ず、連休前の駆け込み需要も見られない。市況についてはメーカーの値上げ発表以降、安値売りは払拭され底打ち。鉄鋼団地内相場は少しずつ上伸しており先高感が窺える。

厚板

- ① <全体感>受注量は変わらず、低位横這いとなっている。紐付き分野においては、中東情勢に伴う化学製品の不足、これに伴う生産への影響も懸念され、調達状況次第では生産調整の可能性もあり。店売り分野においても各分野で仕事量は少なく、引き合いも少ない
<分野別>建産機分野において大きな動きはない。ユーザーにおいては為替の影響で決算的には安定した数字となっているが、販売の低迷、コストの増加とマイナス要素も多く慎重な姿勢となっている。店売りに関しては仕事量が少ないなか、価格競争により切板価格はなかなか上がっていない。
- ② 建設機械向けは中東情勢の不安定により、納入の後ろ倒しもあり売上が減少している。店売り関連は資材高騰、人手不足の影響もあり、売上の減少状態が続いている。

- ③ メーカーの値上げ傾向が色濃いが、市況はそれに追いつかない状況。引き合いがあれば値下げ合戦の様相を呈している。土木関連（小物件）は少しずつ上向き、本格的な建築需要はいつになるか分からないものの、秋から納期が近い物件から動く。

一般形鋼・H形鋼

- ① 中東情勢に加え、夏場の電力料金上昇も予想されることから、価格上昇は必至と思われる。
- ② 都内の大規模オフィスビルの新規供給量が、今後5年間で過去20年の平均を2割下回るとの見通しにつき、市況回復には至らない。
- ③ 昨年秋よりメーカーの値上げは大幅なものになっているが、スクラップ上昇分を転嫁したのみ。電力をはじめとする諸コストの転嫁はこれから。今後、多少のスクラップ市況の下落があったとしても、メーカーが値下げできる状況ではない。そんな中、マーケットの転嫁が遅すぎる。需要がないから、他社がどうか言っている場合ではなく、流通機能を継承していくためにも仕入価格と流通コストの転嫁に真剣に取り組むべき。
- ④ 中東問題により原油が入らず、建築現場で色々な物が入らず問題が起きている。シーリング材、シンナー、塗料等の不足で、現場が動かない所も出てきている。

異形棒鋼

- ① 店売りの動きは低位だが、3月、4月と良くなつてはきている。メーカーの値上げ玉も入ってきているので、段階的に上げていきたい。
- ② 荷動きは依然として低位横這いの状況が続いているが、価格転嫁を実行し、収益の確保に努める。
- ③ 4月度も不振。メーカーは値上げを着実に実行しており、流通としては少しずつ転嫁すべく努力している。市況観が定まらない状況下で、採算確保のための取組みを強化する。

平鋼

- ① 4月の店売り倉出しは3月に比べ多少の仮需は入ったが、出荷量は期待していた程ではなかった。5月以降も値上げは継続的に続くが、需要がないので、必要最低限の購入となっていると思われる。社内加工も、一時的ではあるが建築案件が入っており、GW前後の納期が固まっているが、5月後半から6月の物件が少ないので、今後情報収集をしていく。
- ② メーカーの連続した値上げのため仮需が増加。具体的な物件の話は年末から27年以降ではないか。

軽量形鋼

- ① 中小物件が少なく、店売りの低調が続いており、先行き不透明。
- ② 大型物件が少なくなったが、中規模の物件の仕事はある。中東問題については、一部副資材に影響が出てきているが、現状問題なく操業できている。ただし、工事現場が止まる可能性があるため、急に仕事がストップする可能性もあり懸念している。

- ③ 受注量は横這い傾向であるが、地域差はあるものの、若干夏場に向け受注増が見込まれる。

鋼管

- ① 中東情勢の悪化で今後どのような影響が出てくるか予測ができない。
- ② 前月に比べ出荷量はやや回復したが、景況感は相変わらず悪い。需給にかかわらず、値上げを本格化させていく。

構造用鋼

- ① 需要は自動車関連で中部地区で堅調も、他地区は低位の状態。建機、産機は一部で需要回復の兆しが見え始めた。店売りでは、流通間で纏まった引き合いも聞かれるようになってきた。在庫は適正水準の範囲。価格はメーカーの4月契約からの値上げ発表に伴い、再販価格への転嫁に動き始めている。
- ② 新聞発表もあったが、各メーカーが値上げに動いている。再販価格の転嫁が課題になる。

磨棒鋼

- ① 紐付き品は、建機、農機関連での需要が若干の回復傾向。自動車は今後の生産計画が高めに発表されているものの、現状大きな動きなし。店売りも若干の回復は見られるが、勢いは乏しい。

ステンレス

- ① 需要に盛り上がりは見られないが、値上げ交渉は待ったなしとなっている。丁寧に説明しながら着実に進めていく。中東情勢の緊迫化により、仕様に定められた副資材の入手が出来なくなっている。ナフサ関連製品は確実に供給不足の状況であり、政府にはもっと大量に確保されることを期待したい。

その他

<スクラップ>

- ① 4月の荷動きは前半にやや回復感が見られたものの、月末にかけては再び鈍くなった。国内実需の強さは依然として限定的であり、今後は為替や海外市況の動向をみながらの展開となりそう。

<金属表面処理>

- ① 4月は紐付きがメインとなり計画通り。中東情勢による影響にてシンナー、塗料が入手困難のため、今後の操業は見えにくく、扱い量が増えることはない。GW明けからも塗料供給は不安定。メーカーの値上げだけが先行中。